

左官材料の いろいろな性質

職業能力開発総合大学校
准教授 山崎尚志

第4回 海外の左官しごと

1 やっぱり職人はすごい!!

これまで左官材料の研究をいくつか紹介してきましたが、中休みとして今回は趣向を変えてみます。勤め先の職業大では、学生は職業訓練指導員になるため左官・タイルの実習をします。拙い鋺使いですが教員も頑張ります…。作業して常には感じますが、やっぱり職人さんはすごい!! 私達が丁寧に仕上げて、職人の足下にも及びません。そんな左官しごとと身近な環境にいと、街中の左官しごとについて目が向きます。海外にもよく旅行します。海外のどの地域でも必ず左官仕上げを見かけ、息を呑む左官しごとに出会えます。今回は、その「海外の左官しごと」を紹介したいと思います。

2 まさに擬木!! (香港 ランタオ島)

まずは、香港ランタオ島で出会った擬木? (写真1)です。左官しごとと呼ぶか悩みますが、左官職人の仕事と考えてよさそうです。有名な大仏までの参道の何気ない道の脇に、自然に生える樹木のようにガジュマルの擬木が立ち、遠目ではまず区別できません。近寄ると(写真2)ようやくモルタル擬木と気付きます。なかなか珍しいのではないのでしょうか?



写真1 ガジュマルの擬木 (香港 ランタオ島)



写真2 ガジュマルの擬木 (詳細)

3 こちらは擬竹!? (鄭家大屋 マカオ)

続いては、香港近郊マカオの「鄭家大屋」で出会った漆喰でできた堅樋です。鄭家大屋は19世紀の住宅建築で、漆喰の鋺絵や彫刻など素晴らしい左官しごとが沢山残っていますが、個人的には、写真3の竹に似せた堅樋に惹かれました。前記のガジュマルのモルタル擬木や漆喰の雨樋擬竹など、なかなかユニークな左官しごとです。



写真3 鄭家大屋 擬竹の堅樋 (マカオにて)

4 掻きおとし? (スペイン セゴビア)

ヨーロッパの街中の左官しごとにも職人の鍔づかいを感じます。写真4はセゴビアの住宅の外壁です。この地域ではよく見る左官しごとで、住宅ごとに文様が異なります。モルタルを塗り掻き落として凹ますか、塗ったモルタルに型板などで凸の部分塗り重ねたか…是非教えて下さい。何気ない建物の手の込んだ左官しごとに出会えると嬉しいものです。

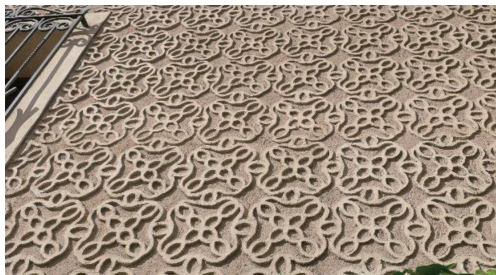


写真4 スペイン セゴビアの住宅外壁 (詳細)

5 アルハンブラ宮殿 (スペイン グラナダ)

続いては、スペイン南部グラナダのアルハンブラ宮殿です。宮殿にはイスラム建築が多く残され何を紹介するか迷いますが、今回は写真5の「ライオン宮」を紹介します。複雑な形状の幾何学文様や植物文様が連続しています。文献によると型板を用いて石こう固めたものが多いようですが、型板が使えない箇所では鍔などで装飾したと思われます。



写真5 アルハンブラ宮殿 ライオン宮

6 ホテルの内装で漆喰磨き (スペイン マドリッド)

経済的理由で? ごく普通のホテルに泊まります。マドリッドで泊まった大型ホテルの内装は、緑色に着色した漆喰 (石灰クリーム) を磨いて仕上げています。日本では、磨き仕上げは特別な空間に用いる印象ですが、スペインやイタリアでは日常的に石灰

クリーム of the 磨き仕上げを施工しています。



写真6 ホテルの石灰クリーム磨き

7 モザイクタイル (イスタンブール アヤソフィア)

アヤソフィアはビザンチン建築の傑作として知られ、キリスト関連の宗教画がセラミックスや石材の破片によるモザイク画で描かれています。コンスタンティノープル陥落後はイスラム教のモスクとして利用されているため、キリスト教のモザイク画は漆喰で覆われていました。



写真7 アヤソフィアのモザイク画

8 最後に台北左官職人の連携 (台北にて)

世界では沢山の左官しごとに出会えますが、現場では日本と同じように、職人の連携で作品が生み出されたんだと思います。台北では、鍔は元首鍔で、鍔板は羽子板型を使ってモルタルを塗っていました (写真8)。こういった光景はきっと世界共通です。



写真8 台北 左官しごとの様子